



ひょうごのみなさまと共に歩む

兵庫 県民共済

広告番号 20-7

# 動物のすみか / 「ハヤブサ」 ハヤブサも厳しい自然環境の中で生きている。

海から吹き上げる風に乗って、グライダーのように気持ちよさそうに飛ぶハヤブサ。滑空速度に至っては時速250~300キロメートルにも達し、空のスピード王としても知られています。ハヤブサは人や天敵から家族を守るために、多くは切り立った断崖絶壁に巣を作ります。兵庫県下では日本海の荒波が打ち寄せる豊岡市付近でよく見られます。

残雪もとけた4月はじめ、メス親は雨風の入りにくい岩だなに2個から4個の卵を産みます。白い綿毛に覆われたひなが誕生するのはメス親が卵を抱いてから1ヶ月余りのちです。巣を守るメス親はからだが大きいので、多くの卵を温めて、ひなを強い日差しや激しい風雨から守ります。

ひなは生後三日くらいで親と同じような獲物を食べられるようになり、オス親は狩りでますます忙しくなります。からだ小さいオス親は空中で小回りがきき、素早く獲物を捕らえて帰ってきます。メス親は獲物を小さく食べやすくするなど工夫して、ひなの口に入れてやります。



巢内でひなを育てる(三谷康則 撮影)



岩場で羽づくろい(三谷康則 撮影)

白い綿羽で覆われていたひなが、幼羽をまとうようになってくると、メス親も狩りに加わり、時には空中で獲物を受け取るなど、夫婦で協力しあって子育てをします。また、獲物のとれない悪天候に備えて、近く岩かげや樹木に肉を隠したりする知恵も持ち合わせています。

4週間も経つとひなは大きくなり、目つきが鋭くなって、羽ばたきの練習を繰り返し、巣立ちの時に備えます。親からもらうエサの回数が減らされると、空腹になった幼鳥は断崖の縁に出て鳴き続けます。目もくらむような絶壁から幼鳥が飛び立つのを親鳥は上空から見守り、キーキーと鳴きながら励まし、巣立ちを促します。そして、ついに空腹に耐えかねた幼鳥はエサを求めて、岩棚をけて飛び立つのです。

ハヤブサは他の動物がなわばりに侵入してくると、家族を守るために、けたたましい声を出して追い払います。そんな家族思いのハヤブサにも、厳しい自然や環境の変化による数々の困難が待ち受けており、ひなを巣立ちまで無事に育てるのは、とても難しくなっています。絶滅の恐れがある鳥として、環境省のレッドリスト絶滅危惧II類に分類されるようになりましたが、現在は都市環境にも適応し回復しつつあるようです。

世界中で経験したこともないような風水害や未知の感染症等が広がるなど、私たち人間を取り巻く環境も常に変化しています。私

たちも自然の中で生きている一員です。厳しい自然環境の中で、暮らしを守るために備えることは、できることから始めましょう。県民共済の「新型火災共済」と「生命共済」は日々の暮らしを大切にしながら、万が一の時に備えることができる保障内容です。ぜひ、保障内容をご覧ください。



ハヤブサ  
ハヤブサ目 ハヤブサ科  
全長 オス42cm前後 メス49cm前後

監修:兵庫県立大学  
地域資源マネジメント研究科  
准教授 出口智広